

目標4 学びをつなぐ学校づくりの実現

施策項目14 学校段階間の連携・接続の推進「かみしほろ学園」



■現状と課題

- 「上士幌子ども教育ビジョン」で定めた5つの「目指す子ども像」の具現化を図るため、平成28年に「かみしほろ学園構想」を策定し、「かみしほろ学園」が設置されました。「幼児から高校生までの一貫性のある教育づくり」、「地域総ぐるみで子どもたちの育ちに関わる仕組みづくり」を基本理念とし、幼・小・中・高と地域が連携した教育活動を進めています。
- 平成5（1993）年度に、北海道上士幌高等学校振興会を設立し、二間口維持の取組を進めています。

■施策の方向性

- 幼児期から高齢期までの生涯にわたる学びを意識した「縦のつながり」と学校・家庭・地域や行政が「横のつながり」をもって、学校教育分野と生涯学習・社会教育分野の相互連携による教育を推進します。
- 認定こども園と小学校における生活や学びの連続性を大切にした幼児期における学びの土台づくりや義務教育9年間を意識した学びを推進します。
- 地元上士幌高等学校の魅力化・特色化を発信するため、地域と密着した取組を推進します。

目標指標	基準年度（R2）	目標年度（R8）
認定こども園における中・高生の職場体験・社協ワークキャンプ、中・高生によるあそびプログラムの開発	9人	40人
各校種間の交流事業や授業等の実施	各校種間で実施	各校種間で2回以上

■施策の展開

- 学びの良好な接続
認定こども園・各学校連携による縦のつながりを意識した、教育活動を展開します。
- iBノート*の活用
幼児から高校生まで「自己管理能力」を身につけていくために、シール帳、ノート、手帳を各学校で活用し、年度ごとに検証を行います。
- かみしほろ学の推進
町の産業、経済、文化、自然などの学びをとおり、子どもたちの郷土愛を育てます。
- 魅力ある高校づくりへの支援
地域の様々な資源と連携・協働して好循環を生むように、上士幌学や地域の課題、ビジョンを共有した「地域とともにある学校」に向けた取組を支援します。

*iBノート…幼児から高校生まで一貫性のある教育づくりのために「自己管理能力（スケジュールを管理する力や学習習慣の定着、基本的な生活習慣）」等を身に付けさせるための共通教材。

目標4 学びをつなぐ学校づくりの実現

施策項目15 教職員の資質向上



■現状と課題

- 子どもの成長を支える教職員は、いかに時代が変化しようとも、その時代の背景や要請を踏まえつつ、次代を担う子どもたちを育てるという極めて重要な使命や責任を持っています。
- 学校では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成、いじめ・不登校の増加など様々な教育課題への対応が求められています。学習指導要領等の趣旨の実現のためにも教職員の資質能力の向上に向けた環境整備は不可欠です。

■施策の方向性

- 教育者として、強い使命感・倫理観と、子どもへの深い教育的愛情を、常に持ち続ける教職員を育成します。
- 教育の専門家として、実践的な指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教職員を育成します。
- 学校づくりを担う一員として地域と連携・協働しながら、課題解決に取り組む教職員を育成します。

目標指標	基準年度（R2）	目標年度（R8）
校外研修やオンライン研修に参加する教職員の割合	100%	維持
町費職員を中心に、町の教職員研修を受講する 基礎研修、指導力向上研修、体験活動等	15単位受講	5年間プログラムを受講する

■施策の展開

- 研修機会の充実
学校種や職種共通の、教職員等として身に付けるべき資質・能力を習得する職員研修等の機会の提供や活動の支援をします。
- ICTを活用した研修の充実
ICTを活用した授業の充実を目指す教職員の研修機会を拡充します。また、オンデマンドやオンライン研修等により、社会の変化を体得できる機会や情報の提供に努めます。

目標4 学びをつなぐ学校づくりの実現

施策項目16 最適な教育環境の整備・充実



■現状と課題

- 学校施設は児童生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに災害発生時には、住民の避難施設としての役割も果たすことから、安全性を確保し、適切に維持管理していくことが重要です。
- 「上士幌町個別施設計画」に基づき、計画的な改修の方向性を定めるとともに、各学校の要望を受けながら、児童生徒が安心して学べるよう、適切な整備を進めていく必要があります。
- 多様な教育ニーズに対応できる設備や機器の充実、学校図書や学校遊具の充実を図り、子どもたちが安心して楽しく過ごすことのできる環境を整備することが必要です。
- スクールバスの適切な維持管理や通学路の安全確保に努め、児童生徒が安全に通学できるよう環境整備を行っています。

■施策の方向性

- 安心・安全な教育環境を確保するとともに、時代の変化や多様化する教育内容・方法に対応し、学校施設の計画的な整備を進めます。

目標指標	基準年度（R2）	目標年度（R8）
小中学校普通教室における空調設備（エアコン）整備の割合	0%	100%
学校施設長寿命化計画に基づく施設修繕	—	適切に継続実施

■施策の展開

- 学校施設の整備・充実
「上士幌町学校施設長寿命化計画」に基づいて、改修や修繕を計画的に実施します。また、学校内における熱中症予防のため、空調設備を整備し、適切な教育環境づくりに努めます。
- 学習環境の整備・充実
学校図書の整備充実、ICT機器の計画的な更新や環境整備を行い、多様な教育活動を推進します。
- 安心・安全な教育環境の確保
学校遊具の計画的な点検と更新を実施し、子どもたちが安心して過ごすことのできる環境を整備します。
「ゆめ育応援団」などの地域住民と協働した通学路の安全対策の実施やスクールバスの安全運行と計画的な更新に努めます。

目標4 学びをつなぐ学校づくりの実現

施策項目17 教職員が働きやすい環境づくり



■現状と課題

- 学校における働き方改革は、学校の教育目標の実現に向けて人的・物的資源をどのように投入するかという「カリキュラム・マネジメント」の側面をもつもので、新学習指導要領の理念の実現に必要な学校運営をマネジメントしていく必要があります。
- 学校教育は、教職員と児童生徒との人格的な触れ合いを通じて行われるため、教職員が心身ともに健康で教育に携わることが重要です。

■施策の方向性

- 常に現状の働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職員人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動を行うことを目指します。
- 教職員間の良好な人間関係を構築し、同僚等との円滑なコミュニケーションの場を醸成します。

目標指標	基準年度（R2）	目標年度（R8）
ストレスチェックの受検率	小 92.0% 中 83.3%	100%
部活動休養日等の完全実施	100%	維持

■施策の展開

- 働き方改革の推進
「上士幌町アクション・プラン」*に基づき、本来業務に専念できる環境整備や勤務時間を意識した働き方を推進します。また、北海道教育委員会作成の働き方改革の手引き「Road」について、積極的な活用に努めます。
- 教職員の健康維持やメンタルヘルス対策
ストレスチェックや面談等をとおして、必要な改善や助言を行ない、必要に応じ医療機関などへの受診を促します。

*上士幌町アクション・プラン…上士幌町立学校における働き方改革の指針。